

第5回 第三次西東京市地域福祉活動計画 進行管理委員会記録

日 時 平成 29 年 2 月 14 日 (火)

午後 7 時～9 時

場 所 田無総合福祉センター第 3 会議室

<出席委員>石橋 尚委員、伊藤正子委員、岩崎智之委員、榎本めぐみ委員、熊田博喜委員
畠山昭裕委員、三輪秀民委員、吉田真也委員 (以上 8 名)

<欠席委員>土方孝一郎委員

<事務局>池田正幸(事務局長)、丸木 敦(総務課長)、鶴野浩至(総務課主幹)
小平勝一(福祉活動推進課長)、浜名幹男(福祉支援課長)
妻屋良男(福祉活動推進課長補佐)、小口浩司(法人運営係長)

<議 題>

(事務局長あいさつ)

地域福祉活動をさらに充実させるため、様々な取り組みを行ってきた。その中でも社会福祉法の改正に伴って、市内の社会福祉法人 21 団体の参加により、社会福祉法人連絡会を設立した。

今後は、こうしたネットワークをとおしていかに社会福祉法人が社会貢献できるのかを検討し、事業の PR や人材の確保、育成を図っていききたい。将来的には地域包括ケアシステムの構築をにらみ、NPO 法人や医療関係者との関係構築もしていくことになる。

第三次活動計画も 3 年目となり、29 年度からは 2 力年をかけて第四次活動計画を策定していく予定である。市と連携を図りながら策定にあたっていく。この進行管理委員会の意見をできるだけ反映させながら、より良い計画を策定をしていきたいので、ご協力をお願いしたい。

<事務局より配布資料確認>

委員長：いよいよ第四次活動計画を策定する時期となるが、第三次活動計画ではどこまでできたのかを含めて、どのような宿題をつないでいくのかについても考えていきたい。

1. 前回議事録の確認

事務局：三輪委員から 3ヶ所の修正意見をもらい、今回配布した資料に反映している。

今週中に修正等の意見があれば事務局に連絡をしてほしい。2月20日(月)には確定稿とさせていただく。

2. 平成 26-27 年度進行管理表の検討について

(1) 進行管理表の修正箇所について

事務局：前回、委員の皆様より進行管理表について意見をいただいたので、あらためて進行管理表を作成した。

新しい進行管理表では、自己評価のCheckの欄を「取り組んだこと(良かったこと)」と、「今後の活動に向けて(課題等)」の2つに分けた。

それ以外は、前回の意見を反映させて修正を加えている。

委員長：進行管理表の様式についてはいかがか。

<意見無く、進行管理表を確定させる。>

(2) 各部会の進行管理表について

委員長：厳密に言うと、今回提示された表は一昨年分の状況となっている。内容を思い起こしながらご意見をいただきたい。

①情報部会

○アナログな情報(回覧板・掲示板等)を再活用する

事務局：(資料2 説明)

良かった点は、町内会、民生委員、大学生の参加、協力を得てアンケートを実施することができたことと、回覧板のロゴの作成や、青年会議所からの委員参加、商店からのクーポン券の協力を得ることができたことなどである。

課題としては、今後既存の事業における人材(ふれまち、ボラセン等)の活用を図る必要があると考えている。

総合評価としては、アナログな情報を通じて地域の状況が見えたが、アンケートの回収率は伸びなかった。アナログ情報(回覧板)について分析を重ねて、今後の活動につなげていきたい。

アクションについては、こうしたつながりを維持、継続して目標達成に向けて取り組むこととした。

○デジタルな伝達手段を活用する

事務局：26年度から27年度については、未実施であったが、28年度に具体的な取り組みにつながってきている。29年度には活動に取り組んでいきたい。

アクションについては、目標の達成に向けて取り組むとした。

○必要な情報を集め・広める

事務局：この項目については、部会の中でどのように取り組めば良いのかということが十分に確認できないままでおり、活動に取り組めていないのが現状である。

アクションについては、目標の達成に向けて取り組むとした。

委員：「アナログな情報」のページで、「日本社会福祉事業大学」は、「日本社会事業大学」の誤りである。

委員長：取り組んで良かったことに書かれている「情報」とは、具体的にどのような地域の情報をつかむことができたのか。

委員：大学生が出してくれた意見で、実際にポスティングをしたときに建物や街並みを把握することができたということである。

委員長：「デジタルな伝達手段を活用する」と、「必要な情報を集め・広める」が空欄だが、どのような状況か。

事務局：現状では、アナログとデジタルな情報の柱をもとに活動している。

アナログについては、二区町内会（田無町）以外に、下宿自治会（南町）で、回覧板を通じてアンケート調査を進めている。

デジタルについては、28年度に準備を進めているところであり、29年度に取り組むことになっている。

委員長：「必要な情報を集め・広める」の柱はどのように取り組めなかったのか。

事務局：当期アクションプランのところを見ると、他の部会の取り組みテーマと重複し、情報部会の取り組みでは無かったのではないかと考えている。

委員長：この柱は、今回の計画の中では凍結するというだけでよいか。

事務局：そう考えている。

委員：凍結するという話であるが、「必要な情報を集め・広める」は、アナログにしても、デジタルにしても情報を集めて拡散していくということなので、そういう意味での情報収集ということではよいのではないか。

委員長：この柱については、アナログとデジタルの部分で取り組んではどうか。

委員：計画策定時にこの柱は、情報部会の目標には入っていなかったと考えている。もともとは、アナログやデジタルに載せるための情報を集めるという意味での目標だと考えている。

委員長：この柱については大事な項目であると考えているので、アナログ、デジタルに関連してこの柱については取り組んでほしい。

委員：この柱が本当に必要の無いものであれば、「未実施」という表記についてはいかがかと思う。「未実施」ということは、やらなければいけないことをやっていないということであり、不適切だと思う。すでにアナログもデジタルな情報も取り組んでいるので、「未実施」という表記にはならないのではないか。

委員長：当委員会は、活動計画を進行管理する中で、柱の取り組みについて必要なのか、必要ではないのかということも検証する役割がある。そう考えると、そもそも計画に何故入っているのかという当初からのボタンの掛け違いがあり、進んでいないという状況であれば、未実施ということもいかがかと思うので、アナログとデジタルの2つの項目に含ませるということでどうか。

<異議なし>

委員長：異議がないようなので、「必要な情報を集め・広める」は、「アナログな情報（回覧板・掲示板等）を再活用する」及び「デジタルな伝達手段を活用する」に統合することとする。

②人材部会

〇地域スカウトキャラバン”をつくる

事務局：（資料2 説明）

26、27年度にかけては、人材を公募したことやイベントの可能性を探ったこと。また、人材名簿を作成したことが成果であり、課題は、運営のノウハウを可視化することである。

公募して登録をしてもらった方のイベントについては、28 年度中に実施予定の、ゆめこらぼ主催イベントの中で実施することを目指している。

アクションとしては、これまでの取り組みを活かしてコーディネートのノウハウを可視化することを課題とした。総合としては、コーディネートできる人を増やすことが課題であるとした。

○人の良いところを見つける活動をする

事務局：良かったことは、戦争体験の講演会を開催することができたこと。課題としては、講演会の情報を周知する時間が無かったことや部会員と社協の役割を明確にすること。

市には広報の協力を依頼していきたい。

総合としては、部会員が積極的に取り組み、口コミによる広報で参加者が増えた。

アクションについては、コーディネートのノウハウを部会員全員に広げ、コーディネートを誰もができる

ようにする必要がある。部会員と社協との役割を明確にして、社協としても協力体制を組む必要があるとした。

○さまざまな交流のきっかけをつくる

事務局：部会長を中心に、公民館等で活動している特技を持った人材を見つけるという活動を一貫して行なっている。課題としては、特定の人しか人材を発見できないのではもったいないので、マッチングのマニュアルをつくり、コーディネートの仕方が見えるようにすることが必要だと考えている。社協としてはマッチングシートを作成していくことが、マニュアル作成の一助になると考えている。市へは関心をもってもらえるようにしていきたい。

総合については、部会員全員が活動できるよう、人材発掘からマッチングまでに必要なマッチングシートの見直しが必要となっている。

アクションでは、これまでのノウハウを蓄積し、部会員全員ができるようにマニュアルの作成に取り組むとした。

委員：施設職員は忙しく、現在のマッチングシートでは記入することが難しく、その場で書いてくれたのは 30 数施設中 1 施設だけだった。マッチングシートの記入に協力してもらうために 7 回訪問したということもあった。平均では 2.9 回の訪問が必要だった。見た目より、こうした手間がかかるため重責となり、他の人ではこうしたことはできないのではないかと思う。

講演会では、幕間に休憩ではなく、人材部会に登録していただいた方のピアノ演奏を組み入れたりして、工夫をしながら取り組むことができた。

委員長：人材発掘を継続的に取り組んでいるが、現在の登録者は何人か。

委員：数名である。12 名の応募があって、ゆめこらぼ主催のフェスティバルに 2 名出演していただいた。

副委員長：目標値に対する成果で、12 件の応募があって「部会長の紹介者 48 件と合わせて 60 件の人材を登録することができた。」とあるが、これはどういうことか。

事務局：一般の市民公募で応募した方が 12 件で、畠山委員の知人が 48 件となっている。

副委員長：これは大きな成果だと思うが、自己評価が空欄だが、書き込むことはできないか。

事務局：副委員長の発言のとおり加えていく。

委員：目標値は「5人」となっているが、目標値に対する成果は「60件」となっていてわかりにくい。60人の登録者名簿が現在あるということか。

事務局：個人登録だけではなく、団体登録もあるので「件」と表記した。スカウトキャラバンで公募した際の件数は12件で、個人11名と1グループである。

部会長が把握しているマッチングに関わる登録件数が48件となっている。

委員：これは何人で何グループか。出演可能な登録者、団体は何人何団体なのか。

事務局：あらためて確認してお示しする。

(※確認の結果、11人37グループ)

委員：48件はキャラバンで発掘できた数ではないのか。

事務局：交流のきっかけをつくるテーマの公民館のイベントなどでの発掘した人材が48件となっている。

委員：「“地域スカウトキャラバン”をつくる」では公募の12件、「人の良いところを見つける活動をする」としては48件エントリーしたと分けて表記してはどうか。

委員長：公募での12件と委員長からの紹介の48件については切り分けて記載してほしい。

副委員長：「さまざまな交流のきっかけをつくる」のところで、施設とのマッチングもされているので、施設の件数も目標値の成果に加えた方がよい。

また、今後の活動に向けての書き方が今までの話を聞いていて表現しきれていないと思う。評価は無いのに、一方では膨大にデータが蓄積されているということも矛盾がある。地域のニーズが出てきているということも課題として加えた方が良いのでは。

委員長：26年度から27年度までの事柄であれば落とし込まなければいけないが、どの時点で気づいたかを明確に記述しないとごちゃごちゃになってしまうのではないか。

③居場所づくり部会

○誰もが立ち寄れる雰囲気のある居場所をつくる

事務局：27年度末に新拠点（ほっとハウスみどり）が設置され、そこでサロン活動を展開できるようになった。サロンへの参加者が協力者として加わるようになったのが成果。地域との関わりを大切にして、参加者を増やし、ネットワークをつくることが課題。活動が定着しつつある状況で、目標設定はできている。

この経験を活かして実践マニュアルをつくることで広がりができるのではないかと考えている。

アクションとしては、積極的に施設や地域団体へ働きかけること。参加してもよいと思われるような活動にすること。社協としては、活動拠点の掲示板を整備することが課題。総合としては、活動を継続することにより、活動計画への理解と参加を促す。実践マニュアルの作成については、活動計画において設定した目標の達成につながるとした。

○一緒に活動できる機会をつくる

事務局：市内等のサロンや居場所を見学し、学習をしてきた。新しい拠点が出来たことで、最終的にはサロン活動を実施することになり、そちらに力を注いでいる。

活動者を増やす取り組みはできていない。

社協としては新規拠点の整備と地域への周知を行った。地域福祉推進係が進めているサロン交流会との連携を図ることが課題。

アクションについては、さらに協力者を増やす必要があること。参加してもらう企画をしていく必要があること。協力者を増やし、ノウハウの蓄積に取り組むことが課題である。

総合としては、拠点での活動を充実させることで、参加者、協力者をともに増員することとノウハウの蓄積について取り組むことを記載した。

社協の掲示板は28年度に設置したが、26～27年度の資料なので記載していない。

委員：「誰もが立ち寄れる雰囲気のある居場所をつくる」ことのイメージはできているが、「一緒に活動できる機会をつくる」ことが居場所づくり部会で取り組むテーマなのかという疑問はある。スタッフに対しては、後者の取り組みについては強調していない。少ないスタッフの中で、どこに注力していくのかとなると、具体的に居場所を運営していくということが役割と考える。したがって、居場所づくり活動の延長線上で出来ることに取り組んでいく必要がある。たとえば、拠点を使って勉強会を開催しているが、スタッフだけの勉強会ではなく、広く呼びかけて参加してもらう。あるいは地域活動拠点では、利用者懇談会が開催されているので、共同企画をしていくなどが考えられる。また、今後作成するマニュアルを使って、他の運営団体と交流するなどが考えられる。

委員：「誰もが立ち寄れる雰囲気のある居場所をつくる」の社協の欄で、社会福祉士資格取得の実習プログラムに組み込むとあるが、どういうことか。また、協力者が増えたとあるが、以前活動者を増やす必要があるとの話を聞いたので、具体的に何人増えたのか教えてほしい。

事務局：社協では、社会福祉士資格取得のための実習生を受け入れているが、前々回の会議で委員より実習プログラムで取り組めないかという意見が出されており、表に記載している。

委員：それであるならば、「一緒に活動できる機会をつくる」に入れたほうがよいのでは。

副委員長：社協が行う実習プログラムということなので、表記の仕方は問題なのではないか。

委員長：この内容については、こだわらないので事務局にまかせたい。

事務局：社会福祉士の一文については削除する。

委員：以前スタッフが4人で、その倍の人数は必要だと聞いていたが、その協力者のことなのか。

委員：居場所づくりのスタッフは現在7人となっているが、「一緒に活動できる機会をつくる」のテーマに書かれているのは疑問である。

事務局：居場所を運営することにより、参加者が協力者になったということである。

委員長：人数が増えたのはいつか。

委員：活動が始まってすぐなので27年度だと思う。

委員長：「居場所をつくる」の部分で書くのが良いのか、「一緒に活動できる機会をつくる」という部分で書くのが良いのか。

事務局：担い手を増やす取り組みをして増えたのではなく、活動をしていく中で参加者が自ら担い手になっていただけという内容になる。

委員長：協力者の人数を追記するという事でお願いしたい。

委員：総合の28年4月の表記は削除したほうがよいのではないかと。総合評価がついていないのはなぜか。

事務局：総合評価では意見をいただいていないことによるもの。

委員：28年3月の時点での実績を入れてほしい。

委員長：総合評価がついていない箇所「“地域スカウトキャラバン”をつくる」と「一緒に活動できる機会をつくる」の総合評価欄が空欄となっているがどうするか、スカウトキャラバンはB。活動できる機会はAでよいか。

<意見無く了承。>

委員長：進行管理表は、これで確定としたい。

3. 各推進部会の取り組み（平成28年10月以降の進捗状況）について

（報告及び意見交換）

①情報部会

委員：デジタルな伝達手段の取り組みとしては、フェイスブックが完成している。

回覧板は、2回目のアンケートを実施し、集約して自治会へ戻して課題を共有しており、自治会として何ができるかという話をしている。自治会との関係を構築しているところで、部会員も一緒に取り組んでいこうとしている。自治会からは、別団体からの依頼を役員で話し合っ、実施するかどうかを判断するという感じであったが、情報部会としては、そのような形ではなく、自治会と一緒に企画していきたいと話し合いをしているところ。

もう一つは、集合住宅への取り組みを考えていて、青年会議所から不動産業者を紹介してもらい、可能であれば生活保護受給者が居住する集合住宅にアプローチしたいと考えている。

副委員長：アンケートの集計報告で、回答数の54件とは。

委員：自治会があるエリアの、自治会に加入している、していないにかかわらず約80戸うちの54戸で、アンケートを回収できた件数である。

②人材部会

委員：障がい者施設でのお祭りがあったので、高齢女性の手芸品を販売した。社協の表彰式に登録団体に演奏してもらった。高齢者の集まりに、演奏者を紹介した。ふれまち住民懇談会に合唱団を紹介した。NPO・市民フェスティバルでは歌手をマッチングした。今後の予定としては、社協が実施する退任民生委員の感謝の集いに演奏者を紹介している。3月には手話コーラスも紹介している。

③居場所づくり部会

委員：マニュアルの原稿はすでにできており、3月の編集会議を経て4月末をめどに完成させる予定。

サロン立ち上げ講座やサロン実施団体の交流企画へのスタッフの派遣、クライアントのニーズを聞き取る技量を高めるための傾聴やアサーティブ、コーチングなどの勉強会に

参加している。自主企画としては、障がいについての勉強会を企画・開催し、ほっとハウスみどりの利用団体との交流の機会となった。社協の地域活動拠点運営委員会に出席し、情報交換している。まちなかいきいーなサロンに登録している 20 団体との交流、ふれまち助け合い活動でのコーディネートをサロン活動日に行うなど、活動拠点ができたことで、活動の幅が広がっている。

以上